

## 第14回 ITER 職員募集説明会（那珂）でのQ&A

### 1. 日時・場所

平成20年10月26日（日）11:00～15:00  
JAEA 那珂研究所 ITER 附属会議棟

### 2. 来訪者 2名

### 3. 説明内容

- ・ ITER 計画の概況
- ・ ITER 機構職員公募の状況
- ・ ITER 機構職員公募の面接試験について  
安東俊郎 ITER 協力調整グループサブリーダー

### 4. 説明会でのQ&A

Q1: ITER機構の日本人スタッフで、JAEAからは何人いるか？

A1: 10月末で、日本人スタッフ（専門職）は19人。JAEAの現役が7人、JAEAのOBが2人。その他、文科省が2名、企業・研究機関などから8名である。

Q2: 応募の資格、条件は？

A2: それぞれの募集ポストのジョブディスクリプションに、応募資格が記載されている。例えば、プラズマ物理関係ではFST-020というポストが募集中である。条件として、学位を取得していること、実務経験が5年以上、などが提示されている。学位を取得しただけでは応募の条件を満足しない。いろいろなルートはあると思うが、どこかで実務経験を積んでITER機構へ応募するという計画でチャレンジしてほしい。

Q3: 日本国内の選考はあるのか？

A3: 国内の選考はなく、応募書類はすべてITER機構へ提出している。

Q4: 雇用契約の期間はどれくらいか？

A4: 典型的な契約期間は5年だが、60歳以上になると3年契約となる場合もあると聞いている。65歳くらいが年齢上限の目安となっている。それまでは何度でも契約更新ができる。

Q5: 研究業績（論文）も必要となると思うが？

A5: 応募書類には、これまでの研究業績リストを添付することになっている。

Q6: ITER機構への派遣には、ITER機構職員になる以外にはないのか？

A6: Visiting Researcher (VR) という短期（3ヶ月以下）・長期（年単位）の派遣がある。VRの場合は、派遣元が給与と滞在費を負担する。ITER機構の職員ではない。現在はVRとしてカダラッシュへ赴任している人数は少ないが、ITERが完成したらプラズマの実験に参加する研究者が多くなると予想され、VRも増加するものと思われる。

以上